



ごあいさつ 総長 竹内成之

残冬の候、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、近隣の先生方との医療連携に関する協議会も回を重ね、昨年9月に本庄市児玉郡医師会の先生方と協議の場を持たせていただき、貴重な御意見を頂戴いたしました。当日、御出席頂いた先生方に改めて御礼申し上げます。

今後とも、このような協議の場を設けてまいりたいと存じます。御指導の程、よろしくお願い申し上げます。



循環器小児科の御紹介

循環器小児科 医長 富田 斉

開院以来、成人中心の医療機関に小児科があることを御存知ない先生方の多いことを医療連携の協議会を通じて知り、この場をお借りして当科を紹介させていただきます。

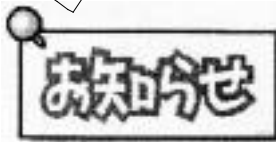
循環器小児科では、新生児期から思春期までの循環器疾患を対象にしているだけではなく、小児疾患の治療の進歩（特に手術成績の向上）に伴い成人期小児心疾患も対象であります。やはり先天性の心疾患が診療及び治療の中心になりますが、川崎病、心筋症、不整脈、などと幅広く心臓と関係ある疾患が紹介されます。また、県北地区の学校心臓検診の2次、3次検診病院としても積極的に取り組んでいます。

循環器小児科を専門とする常勤医2名で外来・入院診療、諸検査（心エコー、トレッドミル運動負荷心電図、ホルター心電図）を実施しています。入院諸検査では、心臓カテーテル検査がありますが、循環器小児科でも循環器内科と同様に、積極的にインターベンション（カテーテルによる治療行為）に取り組んでいます。大動脈・肺動脈弁の狭窄疾患や動脈管開存症は、今は手術よりカテーテル治療が第1選択されることが多いのが現状です。循環器内科の協力で、頻拍発作を起こすWPW症候群のカテーテルアブレーション治療も実施しております。

外科治療に関しては、心臓血管外科医と協力し術後管理を担当しています。肺血流の多い新生児の心室中隔欠損症からファロー四徴症までと様々な心疾患が手術可能で良好な成績をあげています。

今後は成人中心の病院の特徴を生かして成人期小児心疾患に力を入れ、少しでも心臓病をもつ子供たちのQOLの向上に寄与できたらと考えています。

近隣の諸先生方とより一層の連携を図って行きたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。



第40回 埼玉小児循環器談話会
平成12年5月27日(土) 4:00~
大宮ソニックシティ 601号
会費 2000円

症例予定 当科の担当幹事で開催を
お持ち、検討してあります。教育講演、
して興味のあるQ&Aと気さくな会で
先生の皆様や症例を
御参加をお待ち